

本を選ぶ

NO.460 2023年(令和5年)9月20日

●発行／ライブラリー・アド・サービス

<http://www.las2005.com>

本社 〒114-0002 東京都北区王子 4-23-4 TEL:03-6908-4643

●<ろん・ぼわん>指先の話 再々

●選書の法則：S. R. ランガナタンからの187のメッセージ (24)



●●●●●ろん・ぼわん●●●●●

指先の話 再々

以前、職場の同僚にアララギ派の流れをくむ歌人がいて歌集をもらったのだが、こちらは短歌は不得手で眺めていてもなんと返そうか思いつかない。通り一遍の感想でお茶を濁してやり過ごした。生なまな感情がうねっている（ように読める）短歌を目の前の歌人が詠んで、頁毎に何首かずつ立っている歌集を初めてもらったからなのか、どぎまぎした記憶が残る。

それにこの「アララギ」という名詞の意味を中学や高校で習っておらず、イチイの別名とは知らなかった。イチイなら知っている、飛驒の一刀彫りに使われる常緑針葉樹。雌雄異株の裸子植物で丁度今頃赤く甘い実をつける。手許にイチイの木を軸に使った鉛筆があるが、とにかく成長の遅い木なので材は緻密で硬い。

かつて武器としての弓にはイチイやアズサが用いられてきたという。現在は弓道の弓の材料は竹やグラスファイバーもしくはカーボンファイバーになったが、ヨーロッパでも古くは長弓の優れた材料として知られている。銃や大砲などの火器が登場するまで活用された。

一方で、イチイの実を食べられるけれど種は毒なので吐き出すように子どもの頃に教えられては

いたものの、毒薬になるほど毒性が強いとは。小説などに毒薬として登場するから、ミステリー小説ファンなら、あああれね、とアガサ・クリスティの『ポケットにライ麦を』を思い出されるだろう。名探偵マーブルシリーズ全17巻のうち6巻目の名作ミステリー小説だ。会社社長フォテスキュー氏がイチイの実や樹皮に含まれる毒タキシンで毒殺されるのだが、氏の自邸の生垣がイチイという設定でストーリーが展開する。

もうひとつ、紀元前の話だがカエサルの『ガリア戦記』（石垣 憲一 訳／平凡社ライブラリー／2009年）にも登場する。エプロネス族の王のうちの1人カトゥウォルクス王はカエサル率いるローマ軍に攻められたあげく「ガリアやゲルマニアにたくさん生えているイチイの毒で自殺した」（同書：第6巻31）とある。

だが、イチイの樹皮から採取した稀少物質パクリタキセルは毒ではなく、病氣治療の薬に活用されているようだ。そのパクリタキセルという成分に抗腫瘍作用が発見されて以来、研究者たちはこの薬剤の化学合成の研究開発に取り組んでいる（『[パクリタキセルの創製と全合成](#)』／山内 貴靖／[星薬科大学紀要](#) 53 / 2011 / PP. 109-116）。

ところで、イチイの仲間の榧かやという木は同じく成長は遅いが大木となり、碁盤などの高級な材として有名だ。実を絞れば揚げ油となり、かつては灯明の油などとして使われ、さらには寄生虫の駆除薬としても使われてきたらしい。毒にもなれば薬にもなる。植物って本当にすごい。（埜村 太郎）

選書の法則：

S. R. ランガナタンからの187のメッセージ (24)

吉植 庄栄

24. 第五法則と選書・上

『図書館選書論第2版』の内容を、ランガナタンがよく使った架空の対談方式で紹介している。今回は第五法則の初回。成長する選書って何だろう？

【登場人物】

○ランガナタン：図書館界のビッグスター、S. R. ランガナタン (1892-1972) 先生。インドのライブラリアンによると来年はランガナタン先生がライブラリアンになって100周年祭とのこと。各地で様々なイベントがインドであるらしい・・・が！？

○第五法則くん：ランガナタンの著作『図書館学の五法則』に出てくる「図書館は成長する有機体 (A Library is a growing organism)」という5番目の法則。5つの法則の中で1、2を争う夢と希望にあふれた人気者！

○人気者の第五法則くんの悩み

ランガナタン (以下「ラ」)：さて、今回から第五法則くんの出番だ。随分待たせたが、ひとつよろしく頼む。

第五法則くん (以下「五」)：先生、ご無沙汰でした。それにしても我々『五法則』の5兄弟が1931年に誕生した当時と比べて、図書館は私の主張通り本当に成長しましたよね。

ラ：ほんとそうだなあ。90年以上経って、図書館に限らず人類の営みは大きく変化した。しかし君はそれをしっかり踏まえた提言であり、そこに君の魅力があるのだろうか。

五：きっとそういうことなのですね。図書館に関わる人は、私が主張する「成長」という言葉に、多かれ少なかれ夢と希望を持つようです。つまり図書館が今後どのように発展していったらいいものか楽しみである・・・ということなのでしょう。

ラ：うむ、そうだな。しかし君は人々に期待される反面、意外に真の姿が知られていないのではないかな？つまり人気先行型なのでは？

五：はい、それがずっと悩みでした。私の主張「成長する有機体」が独り歩きしてしまい、背景にどのような考えがあるのかを知っている人は少ないのですよね。例えて言うと、知名度は高いし人気者だけど、本心を打ち明けられる人が居ない、そして理解者が居ない・・・という感じですかね。

ラ：なかなか孤独だな。その結果、その人の主張に都合よく引用されるというのも多いよな。

五：はい、まあ人に利活用してもらえるのは嬉しいことではあります。しかし、私としては自分のことをより知ってもらって、その上で「成長する有機体はやはり良いね」と言ってもらいたいですね。

ラ：分かった。今回はこの場を借りて、第五法則くんのことを詳しく知ってもらうところから始めるかの。

五：はい、そうして頂けると嬉しいです。自分の本当の姿よりも大きく成長してしまった虚像の誤解を少し解きたいです。

ラ：了解した。それでは基本的な第五法則くんのことを紹介していこう。

○第五法則くんって実はどんな奴？

ラ：それでは改めてであるが、第五法則くんの紹介をしよう。まずは君の主張の「成長」だが、第一に「大きさ」の成長が考えられるのだよな。

五：はい、そうです。簡単な話から行きますと、まずは図書館が新規オープンしてしばらくすると、蔵書量が増えますよね。この連載のテーマでもある選書をして、そして新しい本を受け入れて行くと蔵書が大量になっていく訳です。

ラ：そうだな、そしてその増えた本を入れるスペースが必要になってくる。

五：はい、空いている書棚に入れていける内は良いのですが、段々入れるスペースが無くなって行きます。図書館員さんが工夫して空きを作ったり、古い本を除籍したりして、何とかやってきましたが、ある日限界が来ます。その場合、書棚を増設したり建物自体を増築したりします。

ラ：うむ、そうやって図書館は物理的に拡大していくのだな。

五：はい、書棚を増設している内は中身が一杯になりますが、増築すると図書館の容積が増えて文

字通り「成長」します。

ラ：で、建物だけが成長するのではないだろう？

五：そうです、次は人的要素です。資料が増える
と人気が出て利用者が増えます。そして大量の蔵書
の運用のため人手が必要になります。また増えた
利用者に対応するためにも図書館員を増やしたり
しないといけません。そして予算も増えて選書
する冊数も増えて・・・と、どんどん図書館は大
きくなっていきます。

ラ：そうだな。しかし今の日本は、蔵書が増えた
後に増改築できないケースも多いので、書棚や書
庫は本でパンパンになっていたり、本を段ボール
箱に詰めていたりしている場合もある。これは成
長の視点から見ると停滞か後退であるよな。

五：はい、そこが悩ましいですよ。特に学校図
書館は蔵書が増えても部屋が拡大されるケースは
希です。現場の方に訊いたのですが、イメージと
して大きさが決まっているコンビニエンスストア
と似た運営をしないとイケないそうです。常に売
れるものを精選して品ぞろえするのと似たような
感覚で資料運用をしなくてはならないそうです。

ラ：らしいよな。そんな訳で、古い本を除籍する
のが日本の学校図書館の重要な仕事の1つと聞い
ている。

五：確かに。筆者さんもこの夏、弟子一党を引き
連れて2つの高校の除籍と模様替え応援作業に
行ったそうです。

ラ：精が出るな。まあ地元の教育現場に何らかの
貢献をしたかったのだろう。ということで、まずは
「大きさ」の量的成長の点を皆で確認した。こ
こから第五法則くんを更に理解して行こう。

○「大きさ」の成長だけだったら、第五法則くん は人気出ないかなあ

ラ：次の成長の視点は「内面の成熟」じゃな。つ
まり質的成長である。第五法則くんは、そこが皆
に夢と希望を与えるチャームポイントなのだと
思う。

五：はい、きっとそうなのですよ。ただ単に物
理的に大きくなるだけではなく、成長には中身の

変容ってありますよね。例えば人間の体の成長は
20歳前後にピークを迎えると言います。身長なん
かは13-15歳ころに急激に伸びますよね。そして
その後は、あまり身長の変化はありません。

ラ：体重は増えるがな。筆者さんは遠隔講義を境
に運動量が減って体重が増加傾向であったが、最
近また訳あって4kg痩せたらしい。

五：また、転職でも考えて悩んでいるのですかね？
前回の転職時に10kg以上痩せた時って、そうだっ
たではないですか。

ラ：うーん、今回はそんなに痩せて無いし、そこ
まで悩みが深くないのではないだろうか。まあ本
人は、諸事情でわしを真似た1日1食生活が継続
できなくなったと嘆いておる。

五：よくお腹空かないですよ。さて、本題に戻
ります。しかし体格の成長と異なり、人格の成熟
って長くかかりますよね。よくいい年して「永遠
の18歳」とか言う人も居ますが、18歳時代の内面
と50歳代の内面は普通大きく異なる訳です。

ラ：そうだ。50歳代で中身は18歳って、いい加
減大人になれと思ってしまう。しかし本人は、ち
ゃんと成熟した上で語っているのが普通だ。いつ
までも気持ちは若くありたい、という気概（と気合）
の問題だな。それで、図書館にも人格の成熟と似
た成長がある。建物は同じで増築といった量的な
拡大とは別に、新しいシステムやサービスを導入
して開館当時と比較すると全く別の図書館に変貌
している場合もある。

五：はい、筆者さんの前の勤務先（注：東北大学
附属図書館本館）は約50年前の建物ではありますが、
リニューアル後には例えば大学生が少人数
でグループワークできる場所がメインエリアに大
きく増えて、館内が一変したそうです。開館当
時、そこはカードボックスと参考図書が一面に置
かれていたらしいですね。当時は目録カードで蔵
書を探さねばならなかったのですが、今は全てオ
ンラインカタログでOKです。また調べ物は、事
典類といった参考図書を使わないといけません
でした。しかしインターネットが現在は主流です。
その結果、場所を取るカードボックスと参考図書

は撤去され、大きな空間を確保できたとのことで

49

東北大学附属図書館本館の建物について：建築家鬼頭梓の設計思想

吉植 庄栄¹, 佐藤 貴啓², 渡辺 真由¹, 上田 夏実⁴

1. はじめに

東北大学附属図書館本館（以下、当館）は、昭和48(1973)年に開館した(写真1)。¹片平にあった附属図書館と現在の川内北キャンパスにあった教養部分館の二つの機能を統合した、全く新しい図書館としてスタートした当館は、長年の全面的リニューアル工事を終え平成26(2014)年10月から、新たな営みを続けている。当館の建物は全面的リニューアルを経たとはいえ、外見は開館当時とほぼ変化は無く、また館内の構造に関して言えば、最小限の改修に留められている。

面白いことに、筆者が見学者に、当館は45年前に建てられたものの、基本構造が開館当時からあまり変化していないことを説明すると、一様に驚く。全面的リニューアルを経たものの、45年前の考えは引き継がれており、古さを感じさせないことを強調すると、一様に驚嘆の表情を浮かべたり、どよめき起きたりするのだ。これはつまり、当時の設計思想が、現在の高度情報・知識社会でも十分に通用するものであることの表れではなからうか。

それでは、当時の設計思想のうち何が現代にも通用する点なのであろうか、何故約半世紀前の建物が、新しさを感じさせるのであろうか。

本館は、当館の見学を担当する参考調査係に席を置く者として、今後見学講師担当者の参考になるように、そして当館の設計思想を知りたい人のために、設計主任であった建築家鬼頭梓(きとう あずさ、1926-2008)の図書館建築の思想をまとめ、当館新築の過程を踏まえながら、比較するものである。



写真1 開館当時の当館：手前のメタセコイアの木が非常に小さい

図1 筆者さんの前の職場の変容についての論文

吉植庄栄, 佐藤貴啓, 渡辺真由, 上田夏実. 東北大学附属図書館本館の建物について：建築家鬼頭梓の設計思想. 東北大学附属図書館調査研究室年報. 2018, 5, p. 49-64.

ラ：その通りだ。その空間に現代の大学では主流になっているアクティブラーニングの場所を創ったのは慧眼だったと思う。その場所の現在の写真を見るとどこにも本棚が無いので、図書館の写真だと説明しないとまるで分からない。

四：そうです。それこそ「変容と進化」なのです。かつて、図書館とは本を保存しておく場所、もっと悪く言うと本を隠して人には利用させない施設でした。しかし現代ではそのような図書館の姿が思い出せないくらい「進化」したのですよね。

ラ：本当に隔世の感があるなあ（遠い目）。

〇そして「変容と進化」の先の話もあるよね

五：そして更に皆さんに知ってもらいたいのは、「成長」には大きさの拡大と内容の進化以外にも意味があるのです。これが図書館間の相互協力体制なのです。これがあまりにも知られていない！

ラ：そうだな、これがよく忘れられている。図書館が大きくなる、図書館の中が進化していく・・・と進むにつれ、図書館の建築が増えて図書館自体

が増えて行くよね。そして、図書館にも種類が分化しはじめる。私が大学生だったころ、自分の大学の図書館はマドラスの公共図書館（注：以前紹介したコネマラ公共図書館）に間借りしていた。その後、新館が建った機会に、コネマラ公共図書館とマドラス大学図書館は分化したのだ。しかし別れた図書館との交流が断絶されたり疎遠になったりはせず、協調するようになる。

五：はい、そして気づくと様々な種類の図書館が開館し、それらが協力する体制が構築されるのですよね。ある図書館に無い本を、所蔵している図書館が貸し出して対応するといったことです。

ラ：そうだ。これは生物の進化の結果、種類が増えるのと似ていると思う。そして、人間も本家から分家に分かれても、年に数回お盆や正月に集まるといった交流は続くものだ。そして昔はお互いの家族同士助け合ったものだ。図書館の相互協力も似たイメージである。

五：ですよね。でも現代は結構親戚づきあいも疎遠になっています。

ラ：図書館の相互協力も油断すると疎遠になりがちなので、定期的な情報交換や研修会といった一緒に活動する仕組みは継続して欲しいものだな。

〇成長する有機体＝成長する組織体

五：はい、これこそ“growing organism”の真意の1つなのです！私は「図書館は成長する有機体(A library is a growing organism)」という法則ですが英語の“organism”は通例「有機体」と日本語に訳します。この語感には、なんとなく生物が成長する、そして進化していく・・・というイメージがあるのだと思います。そもそも「有機体」って何？と感じる抽象的な言葉でもありますよね。この語感と抽象さが世界的な私の人気につながるのでしょうか。しかし本意には“organism”の同族語の“organization”、つまり「組織体」という側面があります。この組織体というのは、図書館が組織的に行動して、1つの大組織として活動する、という意味も持つものなのです。



図2 デジとしよ信州

県立長野図書館．「デジとしよ信州（市町村と県による協働電子図書館）」．
 県立長野図書館ウェブサイト．<https://www.knowledge.pref.nagano.lg.jp/collection/elibrary/shinshu-kyodo-library.html>，（参照 2023-08-28）．

ラ：うむ。現代では図書館間協力は、当たり前になって定着した。しかし経費不足や、中の人の無理解から予算削減・業務見直しの対象に簡単になってしまう。これは成長しない組織体になってしまうどころか、退化する組織体になっている。これは避けたい。

五：はい、図書館の大きな協力体制は成長していかねばなりません。勝手に成長していかないので、不断な努力が必要です。

ラ：うむ。色々哀しい話が聞こえてくる中、日本の長野県は第五法則くんが喜ぶ取り組みをしている。「デジとしよ信州」という電子書籍サービスだ

が、これは非常に素晴らしい取り組みだ。長野県内市町村の公共図書館全館が協力し、分担金を供出しあって長野県民に多くの電子書籍タイトル（2023年8月末時点で2万2千点以上）を提供するサービスを実現させている。

五：はい！このサービスは本当に素晴らしいですね。全国の都道府県に広まって行って欲しいです。単館ではこんな量の電子資料を提供するのは、ほぼ不可能だと思います。様々な図書館が組織として

協力して成しえた大きな成果ですね。まさに成長した「組織体」だからこそ実現した取り組みだと思います。

ラ：県域が広い長野県ゆえに時間と空間を超える電子資料が、非常に有用なのだ。県庁所在地から100km以上離れた市町村でも、このサービスの恩恵を受けることができる。まさに内面の変容と進化、そして成長する組織体の賜物だな。さて、そろそろ今回は終わりで、次回は第五法則くんと選書について考えて行こう。

五：はい、次回もよろしく願いいたします！

（よしょうえ しょうえい：盛岡大学文学部）

DMがたろく

第39回
香・大賞 作品募集

「香りについて自由に表現したエッセイを募集します。」

応募規定：800字
 審査員：鷺田清一・池坊専好・澤西祐典・畑正高
 賞・副賞：金賞1名 副賞30万円 他各賞あり
 締切：2023年11月30日(木) 当日消印有効
 発表：2024年6月下旬

応募票のご請求・お問合せは 香老舗 松栄堂「香・大賞」係まで
 〒604-0857 京都市中京区烏丸通二条上ル東側 TEL.075(212)5591
 ※応募票をご請求ください。入賞作品集『かおり風景』を送付いたします。

香老舗 松栄堂WEBサイトで「香・大賞」の情報をご覧いただけます。
 Facebook「かおり風景」で過去の入賞作品を定期的に投稿しています。

主催：「香・大賞」実行委員会・香老舗 松栄堂
 後援：環境省・日本経済新聞社 大阪本社

www.shoyeido.co.jp

翻訳者による海外文学ブックガイド2
BOOKMARK

金原 瑞人 編
 三辺 律子

読めば読むほど、
 もっと読むたくなる。
 いまこそ
 手に取りたい
169冊!

2023
8/1
 発行

おもしろい。
 やっぱり翻訳モノは

定価1760円（本体1600円） ISBN978-4-484-22241-7

CCCメディアハウス 〒141-8205 東京都品川区上大崎3-1-1
 ☎049-293-9553（販売） <http://books.cccmh.co.jp>

デレク・パーフィット／森村 進 訳
重要なことについて
第3巻

シンガー編論文集への回答となる、パーフィット最後の書。 8800円



ピーター・シンガー 編／
森村 進 監訳・訳、太田・三浦・山本 訳
何か本当に重要なこと
があるのか？

パーフィットの倫理学をめぐって 名だたる哲学者が集い、議論する！ 6600円



TEL 03-3814-6861 *価格税込
FAX 03-3814-6854

〒112-0005 東京都文京区水道2-1-1 <https://www.keisoshobo.co.jp>

カレーライスと
餃子ライス
片岡義男

ベストセラー『珈琲が呼ぶ』の片岡義男が綴る、ほんとうに幸せな食事ふたつと、それをめぐる人生。記憶と幻想で紡がれる物語。 1870円

晶文社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 1-11
Tel 03-3518-4940 <https://www.shobunsha.co.jp/>

稲葉茂勝／渡邊 優 著
万国博覧会



知られざる歴史とSDGsとのつながり
シリーズ・とは何か①

170年以上に及ぶ万博の歴史を
その起源にまで遡って紐解き
貴重な資料や珍しい写真類を
ふんだんに使って描く



A5判美装カバー・320頁 3080円

ミネルヴァ書房 京都市山科区日ノ岡堤谷町 1
TEL075-581-0296 ※価格税込

中国が日本に挑む
自動車覇権

トヨタはEV化を乗り切れるか
高橋琢磨 [著] ●9月下旬刊／四六判

世界の自動車市場はEV(電気自動車)化へと急速に進んでいる。米中が先陣を切る中、大きく出遅れた日本企業の巻き返し策とは。

定価2860円(税込) ISBN 978-4-535-54073-6



20 YEARS ANNIVERSARY
そだちの科学 No. 41

定価1760円(税込)
ISBN 978-4-535-90761-4

特集 自閉スペクトラム症のこれから 10月10日発売

診断基準が大きく変わり、概念も広く拡散したASD。理解も広がり、新たなステージを迎えている今、これからの課題を共有したい。

日本評論社 〒170-8474 東京都豊島区南大塚3-12-4
☎03-3987-8621 <https://www.nippyo.co.jp>

リーガル・ラディカリズム

法の限界を根源から問う

飯田 高・齋藤哲志
瀧川裕英・松原健太郎 編

法哲学・法社会学・法制史学・比較法学の研究者が現代法の根底にある問題を分析し、基礎法学分野の意義と可能性を探求する。

A5判 5,280円



社会学の歴史Ⅱ

他者への想像力のために

奥村 隆 著

20世紀後半から現代へとつながる社会学の歴史を、講義ライブというかたちで解説。「社会という謎」を考えるための必読書。

有斐閣アルマ 四六判 2,860円



有斐閣 東京都千代田区神田神保町2-17
<https://www.yuhikaku.co.jp/>

価格は税込

ESTRELA

■2023年9月号
No.354/9月10日発行
B5判 64ページ
定価1,205円(税込)

〔特集〕都市郊外地域における社会問題

■ マルチスケールで考える都市の空き家問題

若林 芳樹(東京都立大学都市環境科学研究科教授)

■ 大都市圏郊外地域の高齢化と人口減少

江崎 雄治(専修大学文学部教授)

公益財団法人 統計情報研究開発センター(Sinfonica)

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-6 能楽書林ビル5階
TEL: 03-3234-7471 <https://www.sinfonica.or.jp/>